地産地消の家づくりに取り組む 大工・工務店

稲見建築設計事務所
有限会社岩木建設
株式会社大山建工
有限会社キーポイントホーム
建築組パックス有限会社
企業組合県木住
せんだい建設株式会社
大工舎
有限会社大坊建設
玉田工務所
1952HINOKIYA一級建築士事務所
三浦住建
株式会社ミヨシプラス

稲見建築設計事務所

齋藤 実 様邸

ユーザー訪問

DATA
青森市筒井桜川
2016年10月竣工
■延べ床面積／35.00坪（115.93㎡）
■使用青森県産材／ヒバ（土台）、スギ（柱、床、梁、2階ホール手摺り）、サクラ（階段、2階床）。

『稲見設計BAR完パケ』（完全パッケージVTR）――とフェイスブックにあった。その横に『稲見建築設計事務所の完成見学会動画です。BARがある家をテーマにつくりました』。画面をクリックすると、シャカシャカ……と音が流れてきた。シェーカーを振る男性が「パパ」で、向かいのカウンターに座る若い女性が「娘」の役らしい。なかなか終わらないシャカシャカにしびれを切らせて娘が「パパ、はやくっ！」と叫ぶところまで10秒。くすりと笑いを誘われた。齋藤実様邸が、このBARのある家だ。ご主人が、「あの音は実は私が出していたんですよ」と笑う。カメラに映らないようにしてシェイクするご主人の姿が想い浮かんで、またも、くすりとなった。

県産材でゼロエネ住宅 高断熱高気密とモダン

キッチン脇のリビングの一角が小上がりになっている――そう見えたが、腰掛けの部分だけが高く、テーブルに向って掘り炬燵のように脚を下ろせるようになっていた。ブラックウォールナット（北米産クルミ）製のテーブルの渋い色合いと、県産スギに塗装した床のこげ茶色と、冷暖房のパネルの黒色との調和が深みあるモダンな雰囲気を醸している。パネルは、太陽光発電とヒートポンプを組み合わせた輻射冷暖房システムで、稲見建築設計事務所の〝看板〟である。エアコンのように風が立たず、自然な暖かさと涼しさで、エコ。さらに齋藤様邸は、太陽光発電を採用した〝ゼロエネルギー住宅〟だ。県産材＋モダン＋高性能、に加え、BARでくつろげる〝生活の潤い〟も備わっている。

――BARはご主人の要望ですか。

ご主人の話　私も妻もです。〝カフェバーのようなリビング〟にしたかったんですよ。2人ともホームパーティーとか人集めが好きですからね。キッチンと対面するカウンターは、朝食のテーブルにも、子供の勉強机にもなるんです。座った子供と目線が合うようにキッチンの床を14㎝ほど低くしてあります。夕食は、家族みんなでキッチン脇のテーブルで。

生活に潤いを与えているリビングのBAR

奥様の話　建て替える前の家は、湿気がひどくてカビが生えていました。築25年だからそんなにまだ古くはなかったんですけど、壁が黒くなってね。これじゃ子供たちの健康に良くないからって踏み切ることにしたんです。

ご主人の話　私の職場の先輩が、「きっと(私は)稲見さん(稲見設計)に行き着くだろう」って予言めいたことを言ったんですよ。その先輩、3年前に、ある工務店で自宅を建てたんですけど、あまり気に入らなかったようです。稲見さんとは面識のない先輩が、なぜ私に薦めたのかというと、実はネットなんです。稲見さんのブログとかを読んで、断熱や気密、換気といった住宅性能に重点を置く家づくりをしている姿勢に共感したんだそうです。デザインとか表面的なものじゃなく、家の本質を見据える建築士の目。私は何事にも徹底してこだわる性格だから、「きっと合うはず」と先輩は見込んだようなんです。

奥様の話　稲見さんの完成見学会があるのを知って、主人と見に行きました。あれ、と思っ

シックな色調が高いデザインセンスをうかがわせるリビング(左側がキッチン)

2階ホールの手摺りにも県産スギが使われている

たのは、玄関のドアを開けたときに、ちょっと重かったんですよ。ドアそのものが重いとか、金具が渋いとかの重さじゃなく、空気が重いっていうか。室内のドアとか物入れの戸もそうでした。〝気密〟がいいからとは後で聞いて知りました。見学会では稲見さんが応対に追われていてあまり話を聞けなかったので、後日、事務所を訪ねて行ったんです。そのときに、高断熱・高気密住宅についてじっくりと教えていただきました。

4人家族のくつろぎのリビング。この手前に小上がりがある

環境に取り組む建築士 日本エコハウス大賞を

稲見氏の話　ＵＡ値（外皮平均熱貫流率）とＣ値（相当すき間面積）とに裏付けられてこそ高断熱・高気密住宅といえます。ＵＡ値とは、住宅の断熱性能を示す基準値です。齋藤様邸のＵＡ値は０・２８ｗ／㎡ｋで、求められる青森県（３地域）の基準の２倍もあります。このＵＡ値は、平成25年省エネ基準でそれまでのＱ値（熱損失係数）に代わって使われるようになったもので、住宅の内部から外部へ逃げる熱量を、外皮表面積の合計で割った値です。外皮とは外気に接する屋根、壁、天井や窓などの開口部を指します。数値が小さいほど断熱性能が高いということになります。

――Ｃ値とは。

稲見氏の話　床面積１㎡当たりの〝すき間〟面積のことで、住宅の気密性能を表します。北海道や青森県ではＣ値が２以下となる住宅を「気密住宅」と規

BARカウンター脇の緑色の壁面はメモに重宝な黒板になっている

定しています。C値が2とは、たとえば延床面積が100㎡の建物だと家全体で200㎠（14㎝×14㎝程度）のすき間があるということです。齋藤様邸は0・19です。基準値より10倍も高いのです。

ご主人の話　絞り込んだ2社のうち、稲見さんに依頼した決め手は〝換気システム〟でした。もう1社が「第3種換気」なのに対し、稲見さんは「第1種換気」を薦めました。第1種は「機械吸気」と「機械排気」でどちらも強制的に行うのに対し、第3種は「自然吸気」と「機械排気」で、排気だけが機械です。高断熱・高気密住宅には当然第1種を付けるべきとする稲見さんの主張に、建築士としての信念を感じました。

奥様の話　「県産材」という言葉は稲見さんから初めて聞きました。野菜とか食品と同じに「木」だって地元のものが使えるに越したことはありません。運搬する距離が短い県産材にこだわるのも、高断熱・高気密にしても、稲見さんの目的はCO2の排出を抑えることだと言います。住宅建築を通して地球環境というグローバルな問題に取り組んでいるのですね。「日本エコハウス大賞」（部門賞「温熱性能」受賞。2016年10月）を受賞した稲見さんに建て頂いたことが、わが家の誇りです。

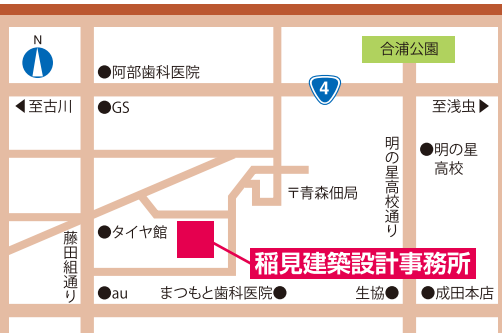
ご主人の要望で、スナックのトイレ風に（手洗い器は津軽金山焼）

リビングに飾られたご主人の趣味のサッカー選手のフィギュア

太陽光発電を“見える化”したモニター

Architecture Design Office INAMI

稲見建築設計事務所
青森市佃1-5-7
TEL.017-742-2636 FAX.017-742-2637
http://www.a173.org
E-mail : staff@a173.org



有限会社 岩木建設

中村様邸

完成見学会訪問

DATA
十和田市赤沼
2016年9月竣工
■延べ床面積／38.76坪（128.14㎡）
■使用青森県産材／ヒバ（土台、床柱、トイレ内壁、下屋天井）、サクラ（上り框）、スギ（床、柱、登り梁）、クリ（下屋柱）。

9月24、25日（2016年）、住宅完成見学会開催――㈲岩木建設から案内状が届いた。葉書一杯に、太い柱が並び立つ〝下屋（げや）造り〟の平屋が印刷されてあった。今や岩木建設のシンボルとなった『下屋のある家』。今回の会場は、十和田市赤沼××。道端に立つ見学会の幟から少し奥まった倉庫の陰に、中村様邸が姿を現した。正面に並ぶ太い柱は6寸角（18㎝）のクリで、全部で5本。この柱が、南向きの屋根勾配なりに手前へ張り出した下屋を支えている。デザイン性だけを優先させて〝軒〟を取ってしまった今はやりの箱型住宅とは真逆に、軒を深くすることにより、真夏の日も雨の日も雪の日も室内と連続して使える下屋空間の〝実用性〟を大事とするのが、岩木建設の家づくりだ。

『下屋のある家』見学会
軒が外壁を守り長持ち

東南の角に玄関。その上にかかる下屋の幅は、クリの柱まで1間（1・8m）ある。そこから軒先までさらに3尺（90㎝）出ているから全体では1間半（2m73㎝）。その幅で、奥の主寝室の前まで8間（14・5m）も通しになっている。柱の上の桁は8寸角のクリ。8mものを2本、追掛大栓継（おっかけだいせんつ）ぎで継いでいる。タタキを打った下屋下の面積は約8坪。16帖分もある広さで、しかも軒が深いから、不意の雨を気にせず洗濯物が干せ、自転車なども置けるし、冬は建物から離れた位置に雪が落ちるので雪かきも要らない。

〝下屋造り〟にこだわる岩木社長の持論はこうだ――「雪国の生活に下屋ほど適したものはありません。夏は太陽の位置が高いので日除けになるし、冬は低く陽が射し込むから暖かい。省エネ効果だけじゃなく、軒が雨や雪から外壁を守ってくれるので家が長持ちします。家に

岩木建設のシンボルともいえる実用性に優れた大きな下屋（げや）

床一面にスギ板が張られた28帖のリビング・ダイニングスペース

とっては良いことづくめで、青森県の気候風土に最適な造りなんですよ」

玄関の中に入ると、いつもながらに仄かな木の香りがした。床のタタキにあしらわれた陶器の模様は津軽金山焼。上り框は、幅が1尺もある曲がりを生かしたサクラだ。ホールの隅に、出迎えてくれるように木製

曲がりを生かした幅1尺のサクラの堂々たる上り框

の鶴が置いてある粋な心使い。

リビングに一歩入る。そこから室内の全容が見渡せた。床一面にスギ板が張られたリビング・ダイニングは28帖もある開放空間だ。リビングの続きに和室。その奥が主寝室で、右隣に洋室が二つ並んでいる。北側には洗面、トイレ、浴室。東側の窓に面してキッチンが据えられている。元気なお孫さんが走り回れる広いワンフロアを引き締めるポイントとして、リビングのコーナーに6寸角のスギの大黒柱がどっしりと立っている。

勾配天井の2本の登り梁もスギで、8寸角。見るからに頑丈そうな太い梁や柱を空間に現わして安心感を与える造りが「いわ木の家」の真骨頂だ。太い木には安心感と、柔らかな温かみと、触れれば心に染みる癒しもある。

勾配天井の頑丈そうな登り梁と、暖かな陽光が射し込むトップライト

天井のトップライトからリビングの床に陽光が落ちていた。上を見上げると、澄んだ青空にゆっくりと白い雲が流れていた。隣のダイニングスペースの天井にもトップライトが。それがあるからリビングの窓から離れていても明るいのだ。どちらもリモコン式のブラインドで陽光を調整できる様になっている。

断熱性高める分厚い壁 4寸の柱に断熱ボード

岩木社長が、8帖の洋室で赤ちゃんを抱っこした若夫婦を応対していた。窓を開け、枠の下端に指を一杯に広げた手を当てながら説明しているのは、外壁の厚さのことだ。

「壁の内側に立っている柱の太さは4寸あります。当社では一般住宅の3寸5分角よりも太い、12㎝の4寸角をどの現場でも使っています。柱の外側に、厚さが5㎝の外断熱用のウレタンボードを張り、さらに仕上げのサイディングを張っているので全体の壁厚は23㎝にもなります。この分厚い壁が家の断熱性を高めているのです」

「あらぁ、木の匂い」と、ご婦人の声が玄関から聞こえてきた。新しいお客様が来たようだ。リビングの床のスギ板にも、大黒柱にも、床柱のヒバの丸太にも「あらぁ」と感嘆の声があがる。木には人を喜ばせる力があるのだ。

4寸角の柱を使用することで壁が厚くなり、断熱性能も向上

大人数でのバーベキューも楽しめる間口の広い倉庫（上／右）

落ち着いた佇まいをみせる居間続きの和室

倉庫は間口4間、奥行き3軒で12坪。「仲間たちとバーベキューをやるので広くという要望だったんですよ」と岩木専務。勧められてテーブルの椅子に腰を下ろす。

「中村様の奥様とは、お互いの子供たちがまだ保育園だった頃に知り合いました。それ以来の長いお付き合いで、節ちゃん、○○ちゃんって呼び合う仲なんですよ」と専務が笑う。中村様のご主人も、岩木社長と同じ小学校の2級下だという。「ずうっと旧十和田湖町に住んでいたんですけどね、〝終の棲家〟は買い物に便利な街なかに建てたいって、土地探しから頼まれました。いろいろ情報を集めて、縁があったのがこの場所です。子育てが終わった夫婦の2人暮らしだから、平屋で、娘さんが帰ってきたときに泊る部屋と、バーベキューができる場所。奥様からの第一要望はそれだけでした。くどくなく、〝さっぱどした〟家を建てて頂戴って」

お客様を見送りながら岩木社長が玄関から出てきた。一服する間もなくまた新しいお客様がやってくる。どうぞ。岩木社長が玄関へ案内する。入る前に、下屋を指差す。頷きながら説明を聞く人の中にまた1軒、『下屋のある家』を建てる縁が育つのだ。

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp

有限会社 岩木建設

第９回あおもり産木造住宅コンテスト最優秀賞受賞

見上 様邸

ユーザー訪問

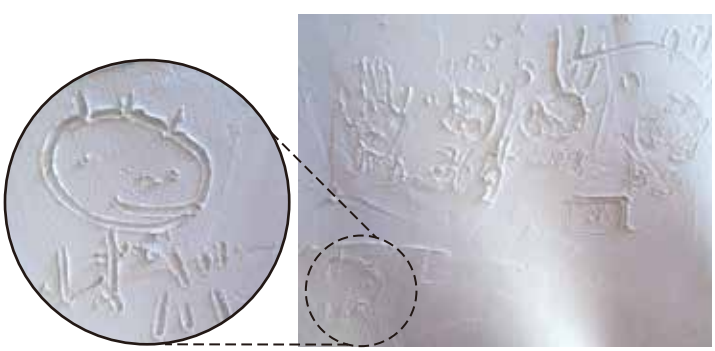
DATA

上北郡七戸町　2016年3月竣工
■延べ床面積／42.26坪（140.00㎡）
■使用青森県産材／ヒバ（土台、階段親柱、洗面室壁、トイレ壁）、スギ（床、柱、梁、洋室壁・天井）、ケヤキ（大黒柱、階段踏板）、クリ（下屋柱、下屋桁、上り框）。

雑木林が見える土地で暮らしたい――。かつては山小屋で働いていたこともあるほど山好きのご主人も、一緒にご主人と登山したことがあるという奥様も、「山」を想わせるロケーションに囲まれた生活が念願だった。建てるのは、「木の家」。玄関に入ると木の香りがし、床には節のある板が張られ、リビングには大黒柱が立ち、吹き抜けには太い梁が架かっている――見学して一目で気に入った㈲岩木建設の展示場のような、木の空間。七戸町郊外に土地を取得し、念願どおりに窓から雑木林が見える見上（みかみ）様邸が竣工したのが２０１６年３月。太いスギの梁が現わしになったリビングから、階段を上る途中の漆喰壁に、家族４人の手形が捺されている。その下に、小さな丸顔の赤ちゃんのイラストもあり、「ばぶー」と書かれている。実は当時まだ誕生していなかった3人目のお子さんの手形代わりなのだ。取材時は、今年の夏に誕生したという3か月になるお嬢ちゃんが、母親に抱かれながらスヤスヤ眠っていた。

『雑木林の家』が最優秀 木の〝ぬくもり〟が評価

9月11日（２０１６年）、午後1時30分。見上様邸の前に2台の車が停まった。降り立った一行は、「あおもり産木造住宅コンテスト」（第９回）の審査委員たち。応募作品の書類審査をして絞り込んだ候補作の現地審査に訪れたのだ。岩木勝志社長と岩木専務らが出迎える。軒が張り出した「下屋」は『いわ木の家』のシンボル。その下に薪が積まれているのを見て、「ここに薪も置けるんだ」と審査委員が感心して呟く。真夏の陽射しを避け、雨の日も雪の日も室内と連続して使える下屋には〝薪置き場〟という用途もあるのだ。玄関の上り框はクリ。リビングの吹き抜けの梁はスギ。6寸角の大黒柱はケヤキで、厚さが5㎝もある階段の踏板もケヤキ。4年前の第5回コンテストで最優秀賞を受賞した住宅（むつ市）と同様、「県産のスギやケヤキなど地域の木材を積極的に使う熱意が感じられた」ことが



漆喰の壁に捺された家族4人の手形（左下にあるのは当時まだ生まれていなかったお嬢ちゃんの顔）

評価され、『雑木林の家』(見上様邸の応募作品名)は2度目の最優秀賞に輝いた。

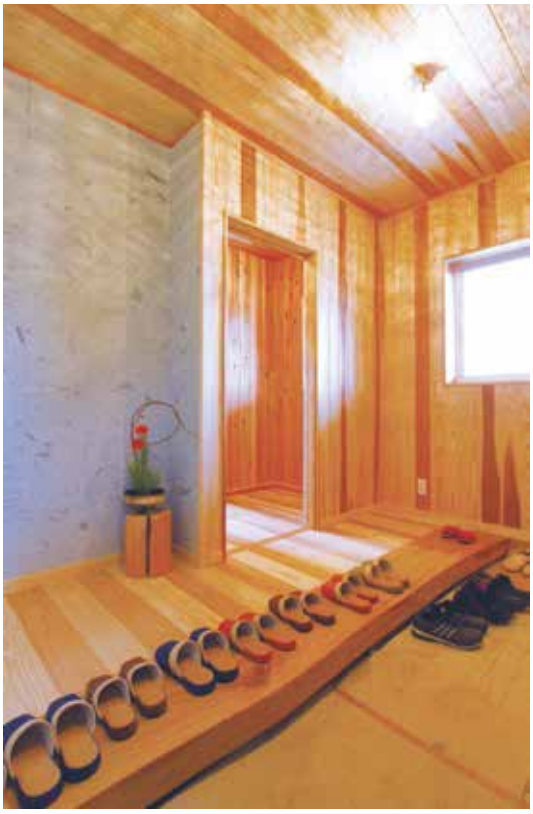
――さっき現地審査で審査委員の皆さんが、「角が柔らかいなぁ」とリビングを見回していたのは、木の〝面取り〟のことでしょうか。

岩木社長の話　そうです。梁の角を、ルーターという道具で丸めています。サンダーがけですね。梁だけじゃなく、ケヤキの大黒柱も面を取っています。アールの丸みが空間を柔らかく見せているんです。それに、太い木材の圧迫感も和らぎますしね。

岩木専務の話　(リビングの端の床を指差して)この幅木もそうなんですよ。細かい所まで念入りに仕上げています。

――岩木建設の展示場を見て「木の家」に惹かれたそうですね。

奥様の話　あれは4、5年前でしたか。車で通りかかったときに、ちょっと寄ってみよう、ということになったんです。十和田



足を踏み入れると木の香りが出迎えてくれる玄関

太いスギの梁が現わしになったリビングとキッチンスペース

の国道４号沿いに『いわ木の家』の看板が立っていることは以前から知っていましたけど、まだ具体的に建てる計画はありませんでしたから、それまでは通り過ぎていました。でも、あの日は何かイベントをやっているような雰囲気があって、それで見てみようと。インターホンを押したら、どうぞどうぞ、って迎え入れてくれたのが専務さんでした。

大空間に太いスギの梁が交差する吹き抜け部分

岩木専務の話　当社の感謝祭のときで、３月でしたね。そろそろ終了の夕方になってインターホンが鳴ったんです。よろしいですか？　って玄関ドアから入ってこられた奥様の、あのときの笑顔。ニッコニコって。ご主人も。春の陽射しが射し込んできたみたいでしたよ。

「ああ、いい家だなぁ」床が板、吹き抜けに梁

奥様の話　リビングに入った瞬間、ああ、いい家だなぁ、って思いましたね。床に板が張ってあって、吹き抜けになっていて、梁がすっごく太くて頑丈そう。薪ストーブもあって、隣の洋室にも水回りにもヒバの香りがしていて、〝建てるならこういう家〟って一目惚れしましたね。岩木建設の他にも展示場は数軒見学しましたけど、他社はキッチンや洗面などの設備がモダンで、室内の造りにしてもデザインが良かった反面、岩木建設の展示場にあった〝ぬくもり〟がなかったんです。木の温かみ、ですね。決め手は「木」でした。

――洗面台のシンクがすごく大きいですね。

奥様の話　理科の教室で使っているものを取り寄せてもらったんです。ちょっとした汚れ物などもジャブジャブ洗えて実用的ですしね。それと、玄関の棚も一杯収納できて重宝です。２軒（１・８２ｍ）幅の玄関の中ほ

理科の教室で使っているものを取り寄せたという大きなシンク

ものづくりが好きなご主人手製のウッドデッキ

どに、袖壁を付けて、その陰に、L字型に棚をつけてもらったんですが、図面上では3尺幅だった袖壁を、圧迫感があるから半分の1尺5寸(45㎝)にしたほうがいい、と提案してくれたのは岩木社長さんです。確かに90㎝も壁が出ていれば、せっかく広い2間幅にした玄関の中が狭くなってしまうところでした。建築途中でもこういう細かな点をアドバイスしてくれたので安心感がありましたね。

家族団らんの時間がゆるやかに流れる暖かな木の空間

――ウッドデッキはご主人の手づくりだそうですが。

奥様の話　ものづくりが好きなんです。テレビ台もパソコンデスクも主人が作りました。外に積んである薪も、丸太をチェンソーで切って、斧で割ってね。室内の漆喰壁も自分で塗ったんですよ。わたしも手伝いましたけど、大半は主人が塗りました。何日もかかったけど、楽しそうでしたよ。何でも楽しんでやる。生活を楽しむ――自由人なんです。

薪ストーブに興味津々の息子さんたち

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp

有限会社 岩木建設

種市 様邸

ユーザー訪問

DATA
八戸市白銀
2016年12月竣工
■延べ床面積／44.30坪（146.43㎡）
■使用青森県産材／ヒバ（土台、洗面室・トイレ内壁）、スギ（柱、大黒柱、床、天井、建具）、クリ（上り框）、サクラ（玄関ホール床）、ケヤキ（柱、階段）。

12月半ば（2016年）の日曜日、取材に伺うと、「昨日、素敵な写真が撮れましたよ」と岩木専務がスマホの画面を見せてくれた。

竣工したばかりの種市様邸にご家族10人が集まった家族写真だ。リビングのヒノキの丸太を中心に、種市様ご夫妻、ご長男夫婦とお子様1人、ご長女夫婦とお子様2人、千歳から駆け付けたというご二男。一緒に岩木社長と岩木専務も写っていた。背が高いアメリカ人の男性はご長女のご主人で、ヒノキの丸太で木登り遊びをする子供ををひょいと抱き上げれば、お子さんの手が天井に届くという。――この写真を「住宅本」に掲載したい、と種市様にお願いした。「どうぞどうぞ、ぜひお願いします」と快諾を得た〝笑顔の家族写真〟がページを飾った。

ゆっくり、じっくりと味わいながら家づくり

種市様邸は着工してから竣工まで約1年かかった。奥様が笑って、「ゆっくり、じっくりと建てたかったんです」。ご主人が受けて、「岩木さんは急かすことなく、足並みを合わせてくれたので、味わいながら家づくりをすることができました」。ご夫婦は共働きなので、時間が一緒に取れる土日に建築現場で岩木社長と打ち合わせを何度も重ねたという。一般には現場の施工が始まればあとは図面どおりに進んでいくものだが、図面だけでは細部の造りは実感しにくいので施工中に現場で打ち合わせすべき、とは岩木社長の方針である。たとえば、人を出迎える素敵な玄関がある。玄関を来客用と家族用とに仕切る予定だったが、「狭くなるから壁はつけないほうがいい」との岩木社長の提案を受け入れた結果、「ほんと、広々として

竣工したばかりの種市様邸にご家族10人が集まった家族写真（前列右から岩木専務と岩木社長）

良くなった」と奥様は話す。玄関ホールには一箇所、飾り窓風を造った。上がり框のクリ、玄関とリビングの建具の格子内の天スギ、靴箱のスギ目が優美だ。階段の壁には四角いニッチをはめ込みリズミカルな飾り棚に。キッチン上にあるブナコの照明はご夫婦で弘前の専門店まで足を運び選んだ品。家づくりの一つ一つには家族のこだわりがあり、打ち合わせを何度もして想いをすり合わせ楽しみながら造った家が完成した。形になった幸せを切り撮った一枚が、記念写真である。

――岩木建設との出会いは。

奥様の話　どこか良い工務店はないかな、と思っていたところに、同じ学校の教師仲間から岩木建設の話を聞いたんですよ。彼女が家を建てたことは耳にしていたけど、岩木建設で建てたということも、彼女のご主人が岩木建設の社長さんの弟さんだということもそのときに初めて知りました。

頑丈そうな太い梁が渡されたリビングの吹き抜け。薪ストーブの熱が2階にも行き渡る

リズミカルな飾り棚のニッチがはめ込まれた階段の壁

岩木建設の常設展示場があると彼女から聞いて、見学に行ったのが2年前です。それまで何社か見学していた他の家と大きく違うところは、「木」でした。床も壁も天井も、目に映るものみんな「木」。リビングの真ん中にドーンと立っている大黒柱も、吹き抜けの頑丈そうな太い梁も、惜しげもなく「木」を大胆に使っているという感じでした。その「木」は青森県産材。地元の木にこだわる、地域に根差した工務店としての意気込みを感じましたね。

ご主人の話　初めから「木の

「木」が惜しげもなく使われているリビングとキッチン

家」を建てようと思っていたのではなかったです。妻の教師仲間の方から薦められた「住宅本」(「青森県産材でエコな家づくり」)を読んでいるうちに、だんだんと、いいな、って思うようになりました。岩木建設の展示場を見学してからは、もっともっと『いわ木の家』を見学したくなって、「住宅本」に掲載されていた岩木建設のユーザーの方々の家も、完成見学会の家も、建築途中の現場まで住所を教えてもらっていっぱい見に行きましたよ。

奥様の話　わたしはアメリカンっぽい家が好きなんです。「木の家」というと、例えばタイルを貼った洗面台とか、ステンドガラスをはめ込んだドアとか〝おしゃれな感じ〟を受け入れてくれないようなイメージがあったんですが、(教師の)彼女から、「要望すれば使ってくれるよ」と聞いて、「それならっ」となりました。主人の好きな木の家と、わたし好みのアメリカンっぽさをコラボさせて岩木建設に建ててもらおうって。

参考にした常設展示場 薪ストーブも吹抜けも

ご主人の話　岩木建設の展示場から〝良い所〟をいっぱい頂きました。リビングの薪ストーブ、背後の壁に貼っている十和田石、ストーブの上の吹き抜け、太い(8寸角)の大黒柱、それから2階のホールのトップライトも。下屋も、です。私も妻も特に気に入ったが和室で、「展示場と同じにしてください」っ

タイルの洗面台やニッチなど随所に見られる木とアメリカンのコラボ

て社長さんに頼みました。

――種市様邸は在来・二重通気工法のソーラーサーキットの家だそうですね。

岩木社長の話　私の弟の家も、ソーラーサーキットです。認知症のおばあちゃんが同居するので、薦めました。認知症の人は、暑い夏でもチョットした風が窓から入ると寒く感じ、窓を閉めきって暑い家にいて熱中症にかかりやすいのです。ソーラーサーキットなら夏にエアコンなしで窓を開けなくても、室内は自然な涼しさでにおいも籠りませんし快適です。冬も家全体が同じ温度で包まれ、結露もしませんしね。

奥様の話　じっくり建てたので、後でこうすれば良かった、という後悔がありません。社長さんのアドバイスは大きかったですよ。和室の鴨居を、アメリカ人の身長に合わせて高くしてくれたのもそうです。良い工務店に引き合わせてくれた彼女に感謝しなくちゃね。

岩木専務の話　家って、住む人のお人柄がそのまま表れます。温かい家庭なら温かい家になります。和室の畳のへり、物入れの内側のクロスはサクラ模様で家の中を花が舞っているようです。種市様邸の温かな家族を象徴しているみたいですね。

主寝室の小窓（左）から吹き抜けを通してリビングが見下ろせる

建築現場でキッチンカウンターの出幅について打ち合わせする種市様ご夫婦と岩木社長

サクラ模様があしらわれた和室の畳のへり

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp

有限会社 岩木建設

座談会（第2弾）

「いわ木の家」支える“若手大工4人衆”と“職場の花”

技能五輪全国大会青森県選手壮行会――㈲岩木建設のブログに新聞記事の切り抜きが載っていた。ガッツポーズをとる出場者の写真の中に岩木建設の三田貴士さんがいた。2016年10月に山形県で開かれた第54回技能五輪全国大会の建築大工部門に本県代表として選ばれた2人のうちのひとりが三田さん。入社して2年で全国大会に出られるまでになったのは腕を磨いた証だ。

一方、同僚の古屋敷剛さんは、9月に行われた青森県第58回認定職業訓練生技能大会で第1位を獲得した。

また佐々木明人さんと武田雅廣さんは昨年そろって2級建築大工技能士の資格を取得した。

2年前、座談会（第1弾）で若手大工4人衆を取材したが、今回は、昨年入社した〝キラリと光る〟女性社員の杉田美月さんにも豊富を語っていただいた。

お互いに切磋琢磨する〝若手大工4人衆〟と〝職場の花〟が「いわ木の家」を支える。

技能五輪全国大会出場 大きな舞台経験を糧に

2016年11月1日。その日の夕方に十和田市伝法寺の現場で上棟式が執り行われた。軒先に破風を取り付けている大工、屋根にコンパネを運び上げている大工たち……。よく見ればヘルメットの下に若手の顔が認められるが、先輩、若手の違いなく〝大工〟として現場に溶け込んでいる姿はこの2年間の成長だ。午後3時、上棟式の準備が始まった。屋根に矢車と五色の旗を立てる古式ゆかしい上棟式を行っているのは県内で岩木建設のほかに何社あるだろうか。土台にコンパネを敷いて祭壇を造り、紅白の一升丸餅、昆布、煮干や、この家に住む人の歳と柱の数を合わせた分の百円玉や拾円玉の小銭を五穀に混ぜて供える。施主に続き、お祝いに駆け付けた親族たちが拝礼。そのあと、足場を上がっていった若手大工が、「安全

「いわ木の家」支える若手大工4人衆（左から古屋敷剛さん、佐々木明人さん、武田雅廣さん、三田貴士さん）

第一～」の掛け声とともに小銭や五穀などをばらまいた。それを拾う懐かしい光景。「上棟式」を省略せず、家づくりの大事な祭祀として継続している――そこに岩木建設の企業姿勢がある。

上棟式で小銭や五穀などをばらまく若手大工たち（左）と、それを拾う人々（右）

〈その2日後に座談会〉

――技能五輪ではどんな課題が。

三田貴士さん　「ひし屋形小屋組」の製作です。ひし屋形とは、寄棟（よせむね）と切妻（きりづま）を設けた複雑な形の小屋組で、コンパネに平面図を書き、展開図を起こして、カンナがけをした部材で組み立てました。制限時間は2日間で11時間45分以内。みんなレベルが高かったです。入賞できなかったのは悔しいけど、大きな舞台を経験したことを糧にしたいです。

三田さんが技能五輪で挑戦した「ひし屋形小屋組」

岩木社長　技能五輪の参加者は電工や造園など総勢約1300人で、そのうち建築大工は86人、青森県からは2人だけでした。中には1社から30人も参加した大手企業もあり、熱の入れ方が違いました。けど、その現実を受け止めて精進しなければ成長しません。

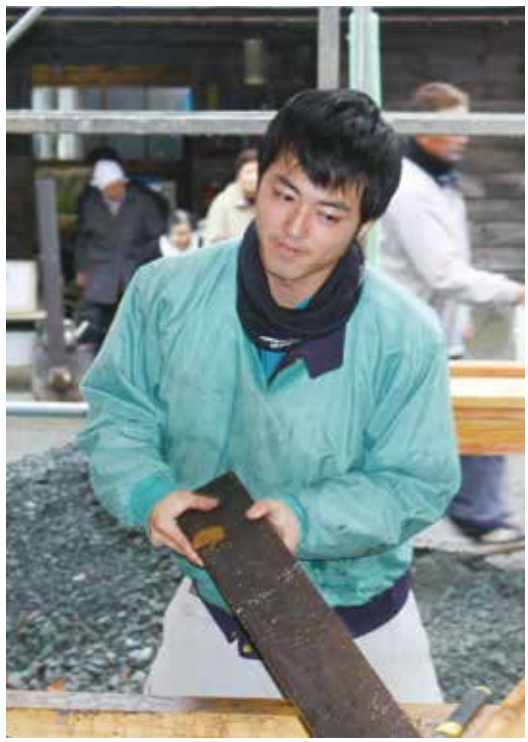
――古屋敷さんと三田さんは2級建築大工技能士を取得したそうですが。

古屋敷剛さん　取得ではなく、合格です。2月（2016年）の実技試験に合格し、取得は、

2級建築大工技能士と2級建築施工管理技士に合格した古屋敷さん

上棟式で祝詞（のりと）を奏上（そうじょう）する三田さん

2017年3月に訓練校（七戸職業能力開発校）を卒業してからになります。それと、2015年の11月に2級建築施工管理技士にも合格しました。あと、2級建築士も受けたのですが、来年もまた挑戦します。



現場で作業に励む武田さん（左）と佐々木さん（右）。次の目標は1級建築大工技能士の取得

——佐々木さんと武田さんはすでに2級技能士は取得されているそうですね。

佐々木明人さん　昨年の10月です。

武田雅廣さん　自分も同じです。

岩木社長　2級を取得してから3年後に1級を受験できます。2級までは訓練校で指導してくれますが、卒業後は日中の作業後、夜に作業場に残ってカンナ掛けを練習するとか努力しなければ1級には届きませんね。

——佐々木さんは2年前の座談会で、先輩の言葉が分からなくて付いていけないと思った、と話していましたね。

佐々木明人さん　今は先輩に学ぶ毎日です。ともかく先輩たちは仕事の要領が良く、仕上げも綺麗です。細かなところも隙間なく〝ピシッ〟と納める。自分がとてもまだできないことを簡単そうに〝ササッ〟とこなしてしまうところがすごい。そうなることが当面の目標です。

——武田さんは先日上棟した現場でどんな作業を担当するのですか。

武田雅廣さん　外構に間柱を立てていきます。はやく一部屋任されるようになりたいですけど、一歩一歩やっていくしかありません。人一倍努力していきます。

入社2年目で初契約に経理も図面もブログも

——杉田さんが入社したいきさつは。

杉田美月さん　十和田工業高校の建築科を卒業しました。在学中から、大手ではなく、地元の工務店に就職したいと思っていました。大手だと、お茶くみとかコピー取りとか狭い範囲の仕事しかさせてもらえませんけど、地元の工務店なら色々と経験できると思いまして。

岩木専務　3年生の夏休みにアルバイトを兼ねて職場体験

経理、ブログから、図面、積算までこなすという“職場の花”の杉田さん（左）

にきてもらいました。新築現場の清掃時に、荷物を沢山持っていた私のそばに駆け寄ってきて「お持ちしましょうか？」って声掛けしてくれたんですよ。〝あ、この子は役に立つ〟と思いましたね。面接時の作文には、「わたし気が強いです」とキッパリ。少々のことではくじけません、という宣言ですね。即決で採用しました（本音はアルバイトの時点から）。やはり、見込んだとおりテキパキと作業をこなし、経理、ブログから、現在は図面、積算にも移行しています。

杉田美月さん　最近、わたしが図面を書いて積算したお客様が契約になったんです。入社第1棟目です。ブログも担当していて、友だちから「見た」と言われると励みになります。もっといろんなことに挑戦していきたいです。

岩木専務　世間一般の大工職人は、みんながみんな技能士を持っているわけではありません。弊社の大工たちに積極的に資格を取らせているのは、どこへ行っても大工としてちゃんと食べていけるようにと思って。親心ですよ。

岩木社長　若手大工がいることで、先輩大工たちのモチベーションが上がりましたね。若手を育てていこうというやる気。それが自分たちの技術をさらに磨こうという意識にもつながっている。良い循環です。

「いわ木の家」のブログ

――杉田さんが紹介した上棟式の模様。

『みなさん、こんにちは。十和田市のF様邸では上棟式を行いました』

（写真も杉田さん）

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp